

がんの予防や治療に関し ということです。

「免疫」という言葉に皆さんは、さまざまなイメージをお持ちだと思います。それでは、がんの予防や治療と免疫との関係は、実際にどこまで分かっていいるのでしょうか。

まず、がんの予防に対して、免疫はどこまで影響しているのか、実は最近まで正確なこととはよく分かっていませんでした。しかし、世界に先駆け、2000年に学術雑誌に報告された埼玉県立がんセンターが実施したコホート研究の結果があります。

それによると、免疫細胞の一種、ナチュラルキラー（NK）細胞の活性状態を、低い群、中等度群、高い群に分けて、がんの発生率を11年にわたって調べたところ、NK細胞の活性が低い人は、中等度の人および高い人と比べて、がんの発生率が高かったとされています。

一方で、NK細胞の活性を高める方法としては、さまざまなものが知られています。きのこなどの健康食品を食べたり、元気に笑ったりすること、NK細胞の活性が高くなることは、ヒト臨床試験でも証明されています。

しかし、ここで、気をつけてほしいポイントがあります。それは、きのこを食べたり、元気に笑ったりしたからといって、がんを予防できるかどうかは、まだ臨床試験で証明されていないので、現段階では仮説の域を出ておらず、正確なことは分からない

また、先のコホート研究の結果でも、NK細胞の活性が中等度の人と高い人との間では、がんの発生率に違いはありませんでしたので、活性が高ければ高いほど良いというわけではありません。

がんの治療と免疫の関係についても同様のことが言えるかと思えます。リンパ球療法などの免疫を活性化させる免疫療法は、がんの治療に一定の効果を発揮することが複数の臨床試験で証明されています。



大野 智

治療に一定の効果
を発揮することが
複数の臨床試験で
証明されています。

がんと免疫の関係

しかし、健康食品で免疫が活性化されたからといって、その健康食品が、実際にがんの治療にも効果があるかといえは、その効果をヒトの臨床試験で証明したケースはほとんどありません。

ヒトの体は非常に複雑な仕組みで成り立っています、まだ解明されていないことがたくさんあります。ですから、「免疫が活性化されると、がんを予防・治療できる」、「健康食品は免疫を活性化する」ゆえに「健康食品はがんを予防・治療できる」といった三段論法は、ヒトの体では、成り立ちにくいということをぜひ知っておいてください。

「健康食品はがんを予防・治療できる」という考えの多くは、現段階では仮説であり、ヒトの臨床試験で証明されて初めて意味のある情報となります。

（金沢大学補完代替医療学特任助教）



笑いをテーマにしたシンポジウムで笑う参加者たち—東京医科大学で昨年11月